私は専門職として、ピアサポーターさんの存在からすごく刺激をいただいています。

お願いしたんですが、受講した患者さんのアンケートで、「話が分かりやすくてとてもよかった」「参考になった」と大好評だったと聞いています。

すごくうれしいです。

栄仁会はピアサポートに取り組んで長いこともあって、「京都府ピアサポート基礎・専門研修事業」の運営にも携わっていますが、その研修の講師の半数以上が当事者の方々です。よしみさんもその1人です。

最初は「大勢の前で講師を務めるなんて、とても無理」と思って、すごく緊張していたんです。でも、場数を踏んで慣れてきて、最近は「どう話したら伝わるかな？」とか、工夫しながら落ち着いて話せるようになりました。

あとは、長期入院患者さんの退院支援とか、退院後の生活支援についても、ピアサポーターさんと協力して活動しています。ピアサポーターさんと相談支援事業所のスタッフが、患者さんの入院している病院に定期的に訪問して面会したり、一緒に外出したりしています。その患者さんが退院してグループホームに入居されることになったら、そのまま担当を継続して、グループホームを訪問することもあります。同じピアサポーターさんが継続して関わってくれることで、患者さんも安心してくれていると思います。

私はいま2人の患者さんを担当させていただいていますが、最初の頃はほとんど話をしてくれなかったのに、いまは打ち解けて話ができるようになりました。そういう積み重ねの大切さは感じます。

私たち専門職だけで訪問したときより、ピアサポーターさんと一緒に訪問したほうが、患者さんが安心して話してくれています。専門職もそうならないよう気をつけているものの一方的な支援になってしまうことがあるので、ピアサポーターさんが患者さんと同じ目線で話してくれることで、患者さん中心の支援を考えることができるなと感じています。

私はまだ担当患者さんはいないんですが……。

これから一緒に活動できることを楽しみにしています。

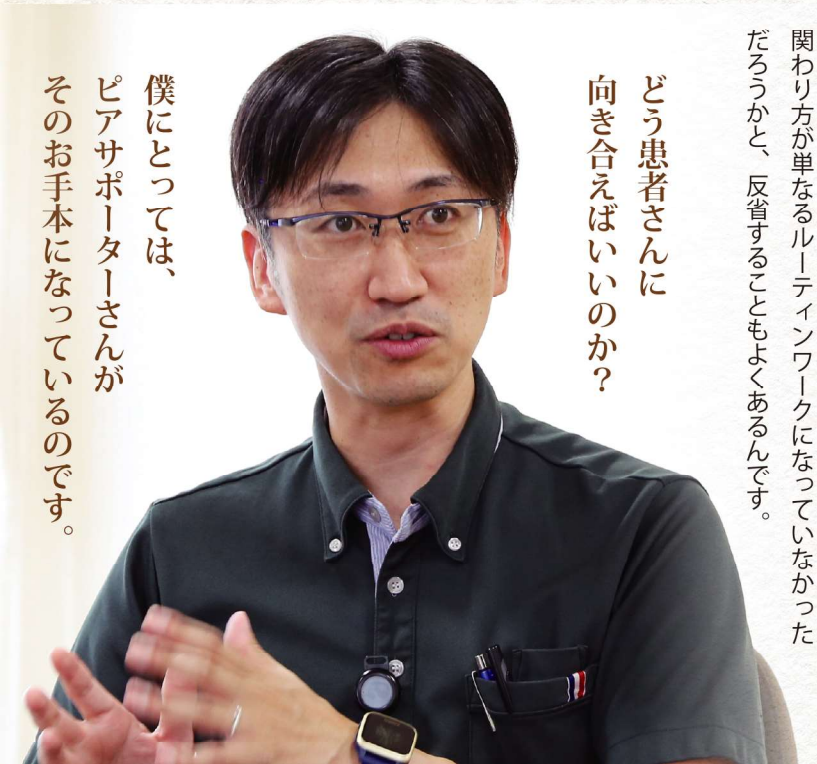
栄仁会に11名ものピアサポーターさんがいて、活躍していることは大きな強みだと思います。ピアサポーターの意義について、スタッフの皆さんはどう感じておられるのでしょう？

ピアサポーターさんが介入されることで、それまで「退院したくない」と言っていた人が「退院したい」と話してくれることがあります。その意欲を、ピアサポーターさんが引き出してくれたと思っています。ピアサポーターさんが地域で生活している姿を見て、自分もそうなりたいと感じられることが大きいのかもしれません。

僕は、「いろは」の管理者になってピアサポーターさんと関わるようになって、〝支援者としての自分の見直し〟をさせていただいている気がします。どう患者さんに向き合えばいいのか？ 僕にとっては、ピアサポーターさんがそのお手本になっているのです。

太田さんの言葉に同感です。私は専門職として、ピアサポーターさんの存在からすごく刺激をいただいています。よしみさんにしてもじゃまいかさんにしても、過去には病気で凄絶な体験をしてこられています。にもかかわらず、関わる患者さんのことを何よりも考えていらして、「少しでもお役に立ちたい」という真摯な思いが伝わってきます。その姿を見て、私自身の患者さんへの関わり方が単なるルーティンワークになっていなかっただろうかと、反省することもよくあるんです。

どう患者さんに向き合えばいいのか？



僕にとっては、ピアサポーターさんがそのお手本になっているのです。